

建築学科			RC構造設計演習				
学年	第5学年	担当教員名	草苅 敏夫				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		鉄筋コンクリート造の事務所建築を例として、「鉄筋コンクリート構造」や「設計演習」および「構造力学」で学んだ知識を統合して、断面の仮定から断面算定までを具体的に構造計算を進めることで、総合的視野から建築構造を捉える能力を養うことを目標とする。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		計算書を作成することから、電卓と鉄筋コンクリート構造の教科書が必要である。「構造力学」と「鉄筋コンクリート構造」の知識が必用とされる。					
到達目標		1.建物に作用する力や荷重を理解でき、応力算定ができる。 2.応力から断面算定が行えるようになる。 3.配筋を理解でき、配筋図を書くことが出来る。					
成績評価方法		構造計算書(90%)と構造図面(10%)により合否判定を行い、判定結果(90%)に授業態度(10%)を加味して総合評価とする。					
テキスト・参考書		テキスト:自作テキスト 参考書:RC規準による鉄筋コンクリートの構造設計 :鉄筋コンクリート構造,市之瀬敏勝,共立出版 :新しい鉄筋コンクリート構造,嶋津孝之・福原安洋他,森北出版 :鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説,日本建築学会					
メッセージ		毎回、少しずつの積み重ねが続きますので、根気を入れて最後までやり遂げて下さい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1.ガイダンス,建物概要説明(1回) 2.荷重計算(2回) 3.剛比計算(1回) 4.長期荷重時応力計算(1回) 5.地震力の計算(1回) 6.地震時応力計算(1回)				・建物の構造概要,記号付けがわかる。 ・床単位荷重表の作成が理解できる。 ・柱・梁の断面から剛比計算ができる。 ・固定モーメント法が理解できる。 ・地震力の求め方が理解できる。 ・D値法による水平荷重時応力計算が理解できる。			
後期中間試験				実施しない			
7.柱軸力の計算(1回) 8.梁断面算定(1回) 9.柱断面算定(1回) 10.スラブ・耐震壁の断面算定(2回) 11.保有耐力の算定(1回) 12.軸組図・伏せ図・配筋図の作成(2回)				・長期荷重時の柱軸力が計算できる。 ・梁の断面算定が理解できる。 ・柱の断面算定が理解できる。 ・スラブや耐震壁の断面算定が理解できる。 ・保有耐力の算定が理解できる。 ・各構造図面を理解することができる。			
後期期末試験				実施しない			

建築学科			コンクリート工学特論				
学年	第5学年	担当教員名	三森 敏司				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		コンクリートは最も主要な建築材料であり、コンクリートなくして建設工事なしとさえいわれている。コンクリートに関し、その製造・施工・管理・耐久性等に関する基礎的知識を修得し、コンクリート技術を総括的に学習し、コンクリート診断士、コンクリート主任技士やコンクリート技士の資格試験に対応できる能力を身につけることができる。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		将来ゼネコン希望の学生は是非履修してほしい。					
到達目標		資格試験模試等の正解率 65%以上を取ることができる。					
成績評価方法		合否判定:2回の定期試験結果の平均が60点以上であること。 最終評価:2回の定期試験の結果の平均(90%)と授業への積極的参加の評価(±10%)。					
テキスト・参考書		テキスト・参考書 テキスト:プリント 参考書:JASS5鉄筋コンクリート工事(日本建築学会) 参考書:図解コンクリート事典(オーム社) 参考書:コンクリート技士合格必携(技術書院)					
メッセージ		資格試験に向けた取り組みをしよう!					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
ガイダンス(0.5) コンクリートの材料(2.5) コンクリートの製造(1) まだ固まらないコンクリートの性質 (1.5) コンクリートの施工(1.5)			各タイトルの復習を講義前に行い、理解を深めることができる。 ビデオ教材を使用し、視覚による効果的運用で理解する能力を身につけることができる。				
後期中間試験			実施する				
硬化コンクリートの性質(2.5) コンクリートの耐久性(1) 各種コンクリート (2) コンクリート技士試験の模擬試験と解説(1) コンクリート診断士ガイダンス(0.5)			各タイトルの復習を講義前に行い、理解を深めることができる。 ビデオ教材を使用し、視覚による効果的運用で理解する能力を身につけることができる。 資格試験に向けた模擬試験の実施により、傾向と対策が認識できる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			英語演習Ⅱ				
学年	第5学年	担当教員名	林 幸利				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		語学演習ソフトを用いてTOEICに対応できるリスニング力、リーディング力の基礎を養成する。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		語学演習室の語学演習ソフトを用いる。進度は個々の学生で異なってくる。 定期試験はTOEIC向けの実力テストとする。 再試験は学年末に1回のみとする。 「履修取り消し」は学年末試験の直前授業日までとし、それ以降は一切受け付けない。					
到達目標		TOEIC400点以上に相当する問題に対処できる。					
成績評価方法		定期試験の成績を100%とし、その点数が60点以上の場合に、TOEIC 400点～449点の取得に対し10点、450点以上の取得に対し20点を加算する。同時に、10点を上限として平常点を加算または減算する。ただし、その結果は60点～100点に収まるものとする。					
テキスト・参考書		教科書:アルクネットアカデミーTOEIC演習コース(語学演習ソフト) 参考書1:新TOEIC(R)テスト 全パート完全攻略(アルク社) 参考書2:新TOEIC(R)テスト 中学英文法で600点!(アルク社)					
メッセージ		本校はTOEICの実施会場になっています(年3回)。ぜひトライしてください。 本演習は自学自習形式となるので、自学自習ができない学生は履修を取り消してもらうことがあります。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
アルクネットアカデミー・スタンダードコース リスニング強化コース リーディング強化コース TOEIC演習コース			指定されたレベルの演習問題で理解度60%を超えることができる。				
後期中間試験			実施しない				
アルクネットアカデミー・スタンダードコース リスニング強化コース リーディング強化コース TOEIC演習コース			指定されたレベルの演習問題で理解度60%を超えることができる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科		応用数学B					
学年	第5学年	担当教員名	佐藤 穆				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修選択	履修単位
授業の目標と概要		ラプラス変換・フーリエ級数・フーリエ変換の基礎を理解し演習問題を解けるようにする。専門科目を学習するのに役立つ数学的基礎を身につけさせる。特に振動現象の解析に役立つような計算法に主眼を置く。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		3年までの基礎数学を十分習得している事が必要である。特に微積分・三角関数・指数関数・対数関数の基礎知識が必要不可欠である。					
到達目標		教科書の演習問題Aの70%が自力で解ける。					
成績評価方法		定期試験と授業時間に実施する試験の平均点で評価する。平均点が60点を超えた学生に対して授業態度・レポート・課題点等を基準の範囲内(+10%)で加味する。					
テキスト・参考書		基礎解析学(改訂版) 矢野健太郎・石原繁 共著 (裳華房)					
メッセージ		自主的に問題を解き疑問な所は質問し学生各自が積極的に授業に参加してもらいたいと思う。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.ラプラス変換 (1) ラプラス変換とその性質(4回) (2) 逆変換(3回)			・ラプラス変換の定義を用いてラプラス変換ができる。 ・ラプラス逆変換ができる。 ・簡単な変換表が作れる。				
前期中間試験			実施する				
(3) 定数係数線形微分方程式のラプラス変換を用いた解法(3回) 2.フーリエ級数 (1) フーリエ級数(2 周期)(5回)			・ラプラス変換の性質を理解し、ラプラス変換を用いて定数係数線形微分方程式が解ける。 ・フーリエ級数の意味を理解し、周期2 の周期関数のフーリエ級数を求めることが出来る。				
前期期末試験			実施する				
(2) 余弦級数・正弦級数(2回) (3) フーリエ級数(一般周期)(2回) (4) フーリエ級数の性質(3回)			・一般周期関数のフーリエ級数が求められる。 ・パーセバルの等式及び収束定理を用いて色々な級数値を計算できる。				
後期中間試験			実施する				
3.フーリエ積分 (1) フーリエ変換・逆変換(3回) (2) フーリエ余弦変換・正弦変換(2回) (3) フーリエ積分の性質(3回)			・フーリエ積分の意味(フーリエ級数の非周期関数への拡張)が理解できる。 ・フーリエ変換及び逆変換の計算が出来る。 ・フーリエ積分を用いて種々の定積分を求めることが出来る。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			応用数学II				
学年	第5学年	担当教員名	澤柳 博文				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		複素関数論を学習する。複素数の扱いに慣れること、正則関数の概念、複素関数の微分・積分、留数定理の理解を目指す。また、留数定理を用いていろいろな積分を求められるようにする。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		大学編入を目指す学生や、数学に興味があり、3年までの数学、4年の応用数学を十分修得している学生が履修対象者である。					
到達目標		教科書の問と演習問題Aの70%以上が自力で解ける。					
成績評価方法		中間・期末の2回の試験の平均点で評価する。その評価が60点を超えた場合は、授業態度、レポート点を基準の範囲(+・-10%)で加味する。					
テキスト・参考書		教科書：基礎解析学(改訂版) 矢野健太郎・石原繁 共著 (裳華房)					
メッセージ		多くの難しい内容を短期間で学ぶことになります。十分理解ができなかった時はその日のうちに復習する必要があります。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.複素数(2回) (1) 四則演算、極形式、 $n$ 乗根 2.正則関数(5回) (1) 複素関数、導関数と正則関数 (2) コーシー・リーマンの方程式 (3) 基本的な正則関数 3.複素積分(1回) (1) 複素積分の定義			・複素数の四則演算、極形式への変形ができ、 $n$ 乗根が求められる。 ・複素関数の導関数の定義、コーシー・リーマンの方程式を理解し、正則関数の判定が出来る。 ・基本的な正則関数の値を求めたり、微分ができる。 ・対数関数の多価性を理解し、その値が求められる。 ・複素積分の定義に基づき、簡単な積分が出来る。				
前期中間試験			実施する				
(2) コーシーの定理(1回) 4.展開・留数(6回) (1) テイラー展開・ローラン展開 (2) 極と留数 (3) 留数定理 (4) 留数定理の応用・積分			・コーシーの定理に基づき、積分路の変形が出来る。 ・複素関数のテイラー展開が(特に変数変換を利用して)できる。ローラン展開の意味がわかり、テイラー展開を利用してローラン展開できる。 ・ $k$ 位の極の意味がわかり、その留数を求められる。 ・留数定理を用い、複素積分ができる。 ・留数定理を利用して実数関数の積分を求められる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			海洋建築				
学年	第5学年	担当教員名	加藤 雅也				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		沿岸域を含む海洋空間の物理・化学・生物に関する基本特性を学び、海洋空間の利用を図る上で必要な基礎知識を身につける。また、海洋建築物の設計に必要な波や流れによる外力の評価ができるようになる。さらに、実例に基づき沿岸域の建築計画や設計について学習する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業は主として講義形式で行うが、一部演習も含まれる。 授業を理解するには、基本的な物理や数学の知識が必要である。					
到達目標		沿岸域を含む海洋空間の基本的な環境特性を説明できる。 波や流れの基礎理論を理解し、波力や浮体の安定計算ができる。 マリーナ等の沿岸域における建築の計画に必要な基礎知識を身につけている。					
成績評価方法		合否判定:2回の定期試験の結果の平均が60点を超過していること。 最終評価:2回の定期試験の結果の平均点とする。					
テキスト・参考書		テキスト:海と海洋建築(成山堂書店) 参考書:海洋環境学 - 海洋空間利用と海洋建築物 - (共立出版) わかりやすい海洋建築物の設計(オーム社) 海洋建築と環境(日本建築学会) 海洋建築用語辞典(日本建築学会)					
メッセージ		講義の対象は、海洋学、沿岸海洋工学、海岸工学、建築学等の複合領域です。 建築との関連を意識しながら、幅広い知識を身につけるよう努力しましょう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. 海洋開発・海洋空間利用の歴史(1回) 2. 海洋のしくみ 2.1 海洋物理(3回) 2.2 海洋環境(3回)				海洋の構造や基本的な波・流れのメカニズムを説明できる。 代表的な海象のしくみを説明できる。 海洋における生物・化学環境の特徴を説明できる。 沿岸域の環境特性を説明できる。			
後期中間試験				実施する			
3. 設計外力 3.1 波と流れの理論(3回) 3.2 浮体の運動(1回) 4. 沿岸域の建築計画と設計(3回) ウォーターフロント開発、リゾート開発 マリーナの計画・設計、漁港・漁村の計画・設計				波や流れに関する基本的物理量を計算できる。 構造物に作用する流体力や浮体の安定に関する基本的な計算ができる。 沿岸域における建築の計画や設計に関する基本的知識を身につけている。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			学外実習I				
学年	第5学年	担当教員名	各学級担任				
単位数・期間		1単位	その他	週当りの開講回数	0回	選択	履修単位
授業の目標と概要		学外の企業で5日間以上の実習を行う。実習活動を通じて、社会人としての倫理・マナー・規律、さらに、協調性とコミュニケーション能力を身につけ、また、技術者としての自己を確立する動機付けとする。実習日誌と実習報告書を提出し、学科単位で実施される報告会で報告する。なお、企業での実習は、長期休業中に行う。					
		釧路高専目標	B:90%,F:10%		JABEE目標	d-2-d,f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		履修方法や注意事項などについてガイダンスを受けた後、実習を行う企業を決定し、長期休業中に実習をおこなう。その後、実習報告書を作成し、学科で実施される報告会で報告する。					
到達目標		実習活動を通じて、社会人としての倫理・マナー・規律、さらに、協調性とコミュニケーション能力を身につけ、実習内容の報告、発表ができる。					
成績評価方法		・基準点(満点60点)+実習機関からの評価(満点15点)+担当教員による実習報告書の評価(満点10点)+複数教員による実習報告会の評価(満点15点)の総合点により評価する。					
テキスト・参考書		学外実習の手引き(ガイダンス時に配布)					
メッセージ		企業の協力があって初めて成り立っている科目です。履修に当たってお世話して下さる企業の方への礼儀や感謝の念を忘れないようにしましょう。この実習で得た体験をなんとしても役立ててやるという姿勢が必要です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・履修方法ガイダンス ・実習企業の決定 ・企業担当者との連絡				・この科目の履修方法や注意事項が分かる。 ・学生の希望を元に事務局と担任の打ち合わせにより配属が決定されます。 ・担任の指導下で企業と連絡をとり、有意義な実習ができるよう準備しましょう。			
前期中間試験				実施しない			
・企業での実習				大部分の学生は夏休み中に企業実習を行います。企業内の実習指導者の指示に基づいて各種実習を体験します。日々の実習結果をその日の内に実習日誌に記載し、指導者に報告してください。			
前期期末試験				実施しない			
・報告書の作成 ・発表。				・実習報告書を作成し、報告書を担任に提出します。 ・学科内での報告会で報告する			
後期中間試験				実施しない			
・注意事項:本科目は第4学年の夏休みに実施されるが、企業、学生の希望によりそれ以外の長期休暇中に実施することも可能である。またシラバスシステムの制約のため、第4学年の科目として登録されているが、学生便覧に記載されているように、第5学年での履修も可能である。							
後期期末試験				実施しない			

建築学科			学外実習Ⅱ				
学年	第5学年	担当教員名	各学級担任				
単位数・期間		2単位	その他	週当りの開講回数	0回	選択	履修単位
授業の目標と概要		学外の企業で10日間以上の実習を行う。実習活動を通じて、社会人としての倫理・マナー・規律、さらに、協調性とコミュニケーション能力を身につけ、また、技術者としての自己を確立する動機付けとする。実習日誌と実習報告書を提出し、学科単位で実施される報告会で報告する。なお、企業での実習は、長期休業中に行う。					
		釧路高専目標	B:90%,F:10%		JABEE目標	d-2-d,f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		履修方法や注意事項などについてガイダンスを受けた後、実習を行う企業を決定し、長期休業中に実習をおこなう。その後、実習報告書を作成し、学科で実施される報告会で報告する。					
到達目標		実習活動を通じて、社会人としての倫理・マナー・規律、さらに、協調性とコミュニケーション能力を身につけ、実習内容の報告、発表ができる。					
成績評価方法		・基準点(満点60点)+実習機関からの評価(満点15点)+担当教員による実習報告書の評価(満点10点)+複数教員による実習報告会の評価(満点15点)の総合点により評価する。					
テキスト・参考書		学外実習の手引き(ガイダンス時に配布)					
メッセージ		企業の協力があって初めて成り立っている科目です。履修に当たってお世話して下さる企業の方への礼儀や感謝の念を忘れないようにしましょう。この実習で得た体験をなんとしても役立ててやるという姿勢が必要です。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
・履修方法ガイダンス ・実習企業の決定 ・企業担当者との連絡			・この科目の履修方法や注意事項が分かる。 ・学生の希望を元に事務局と担任の打ち合わせにより配属が決定されます。 ・担任の指導下で企業と連絡をとり、有意義な実習ができるよう準備しましょう。				
前期中間試験			実施しない				
・企業での実習			大部分の学生は夏休み中に企業実習を行います。企業内の実習指導者の指示に基づいて各種実習を体験します。日々の実習結果をその日の内に実習日誌に記載し、指導者に報告してください。				
前期期末試験			実施しない				
・報告書の作成 ・発表。			・実習報告書を作成し、報告書を担任に提出します。 ・学科内での報告会で報告する				
後期中間試験			実施しない				
・注意事項:本科目は第4学年の夏休みに実施されるが、企業、学生の希望によりそれ以外の長期休暇中に実施することも可能である。またシラバスシステムの制約のため、第4学年の科目として登録されているが、学生便覧に記載されているように、第5学年での履修も可能である。							
後期期末試験			実施しない				



建築学科			環境学A				
学年	第5学年	担当教員名	杉山 伸一				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		豊かな人間性を有し、心身共に健全にして北方文化を創造する人になってもらう。 持続性ある環境の保全再生のあり方を地域の生物学を中核に身につけさせたい。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		釧路地方文献(釧路市環境基本評価、叢書釧路湿原)参考。学生が主体的に問題意識をもち、積極的、意欲的に取り組める内容にする。自ら資料を読み取り判断してまとめ、記録する。					
到達目標		社会的課題となっている釧路湿原の再生事業を、生物学的にその必要性を捉え、科学的に解決する手段を考察する。					
成績評価方法		レポートによる評価：各期末の評価の平均60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		テキスト：(釧路新書)釧路湿原 参考書：(啓林館)図解フォーカス総合生物、 釧路市環境基本計画					
メッセージ		一局集中で勝利を得るためにも基礎基本となる、広く浅い世間常識を収めなければならない。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. 環境学概説(2回) 2. 世界、日本、北海道の湿原の特色(2回) 3. 釧路湿原と周辺の地形地質の特異性(2回)			1. ヒトと自然とのかかわりを生態的に考察できる。 2. 釧路湿原を世界の湿原と比較して特異性を知ることができる。 3. 湿原の泥炭生成を調べ、周辺の地形との関係を知ることができる。				
前期中間試験			実施しない				
1. 湿原の生成過程を知る(3回) 2. 湿原と植生との関係について知る(4回) 3. 湿原の動植物どうしのかかわり(3回)			1. 釧路湿原の地形地質を地形学的に理解できる。 2. 植物を相関的に観て植生と周囲の関係について知ることができる。 3. 生物どうしの安定した生態系について考察することができる。				
前期期末試験							
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			環境学B				
学年	第5学年	担当教員名	杉山 伸一				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		豊かな人間性を有し、心身共に健全にして北方文化を創造する人になってもらう。 持続性ある環境の保全再生のあり方を地域の生物学を中核に身につけさせたい。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		釧路地方文献(釧路市環境基本評価、叢書釧路湿原)参考。学生が主体的に問題意識をもち、積極的、意欲的に取り組める内容にする。自ら資料を読み取り判断してまとめ、記録する。					
到達目標		社会的課題となっている釧路湿原の再生事業を、生物学的にその必要性を捉え、科学的に解決する手段を考察する。					
成績評価方法		レポートによる評価：各期末の評価の平均60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		テキスト：(釧路新書)釧路湿原 参考書：(啓林館)図解フォーカス総合生物、 釧路市環境基本計画					
メッセージ		一局集中で勝利を得るためにも基礎基本となる、広く浅い世間常識を収めなければならない。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. 釧路湿原の両生類、は虫類について(3回) 2. 釧路湿原の鳥類、ほ乳類について(3回)				1. 両生類、は虫類について環境適応の戦略を知ることができる。 2. タンチョウを中心にして他の獣類との関連について理解できる。			
後期中間試験				実施しない			
1. 釧路湿原とヒトとのかかわりについて(4回) 2. 国立公園としてのワイズユースと再生事業について(4回)				1. 湿原とヒトとの関連を歴史の上から考察することができる。 2. ワイズユース、再生事業の今後の方向性を考え、持続性ある環境保全、再生に貢献できる。			
後期期末試験				実施しない			

建築学科			建築計画Ⅲ				
学年	第5学年	担当教員名	千葉 忠弘				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		人間の生活上の要求を充たした「建築空間」を創るために必要な基本的事項を修得することを目標とする。 また、「建築計画」という専門分野の知識を修得し「建築設計演習」に応用する能力を身につける。 5年次の各論として、公共建築及び商業建築、計画手法など設計上の必要事項について学ぶ。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		4年次までの設計及び製図の基礎知識が応用できる。 建築設計製図との関連が強いので、エスキスの基礎知識とする。 各セクションごとに類似施設のレポートを課す。					
到達目標		建築計画に関わる手法、基本的な法規制が理解できる。 建築計画の基礎を理解できる。 将来建築士として実務を行う上で必要となる計画的知識を身に付けるとともに、二級建築士試験に出題される建築計画当該分野の問題に対応できる。					
成績評価方法		2回の定期試験の平均で合否判定する。 総合成績は定期試験(90%)、レポート内容(10%)で評価する。 ただし、すべてのレポート提出が合格条件である。					
テキスト・参考書		参考書 - コンパクト建築設計資料集成(日本建築学会編) 参考書・現代建築学「建築計画2」(鹿島出版会) 参考書・建築基準法令集					
メッセージ		公共建築は地域と密接なつながりがある施設なので、常に最新の建築動向、地域に関する新聞記事に注意を払う事。 建築計画と建築設計図との関連を十分意識し、本講で学習した事を設計演習に生かせるよう注意を払う事。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1.コミュニティ施設、劇場(4回) 2.学校建築(4回)				1.コミュニティ施設、劇場施設の建築動向と計画概要が理解できる。 (コミュニティ施設の種類と役割が説明できる。劇場施設の動向と計画上の留意点に分かる。) 2.学校建築の建築動向と計画概要が理解できる。 (学校の運営方式、現状と将来、敷地・配置計画、平面ブロックプラン、各教室の計画手法が理解できる。)			
前期中間試験				実施する			
3.病院建築(4回) 4.宿泊施設(3回)				3.病院建築の建築動向と計画概要が理解できる。 (病院の構成、病棟、外来、中央診療部門毎の基本的知識と計画手法が理解できる。) 4.宿泊施設の建築動向と計画概要が理解できる。 (各種ホテル、旅館の特徴、配置計画、部門構成などが理解できる。ホテル旅館の「客室」「パブリックスペース」の基本的知識と計画手法、避難計画について理解できる。)			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			建築構造力学Ⅳ				
学年	第5学年	担当教員名	鈴木 邦康				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		基本的なトラス，ラーメン骨組みの応力や変形の解法を取り扱ってきた建築構造力学，を土台として，建築構造設計で対象とするような複雑な骨組みの解法に便利な実用解法の基礎を例題を通して習得する。 さらに行列を用いた線材の応力解析及び弾塑性の基礎を学習し，簡単な構造物の保有水平耐力の計算ができることを目標とする。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-4	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		4年生までの建築構造力学，，を理解していること。					
到達目標		(1)固定モーメント法の原理を理解し，不静定ラーメンの応力を略算できる。 (2)D値法の基礎を理解し，水平力を受けるラーメンの応力を略算できる。 (3)マトリックス法の基礎を理解できる。 (4)弾塑性の基礎を理解し，骨組みの保有水平耐力を算出できる。					
成績評価方法		4回の定期試験の結果の平均とし、60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		坂田・島田著「建築構造力学」(学芸出版社)					
メッセージ		授業では演習を取り入れます。授業時間内に終わらない場合は，次の授業までに必ず終わらせておくように。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. 固定モーメント法 (1) 解法の原理 (1回) (2) 節点が移動しないラーメンの解法 (3回) (3) 節点が移動するラーメンの解法 (3回)				・分割率，分割モーメント，到達モーメント，解放モーメント等用語の意味が理解できる。 ・表中でモーメントを求めることができる。 ・節点が移動するラーメンの応力を計算できる。			
前期中間試験				実施する			
2. D値法 (1) 水平荷重を受けるラーメンの略算法 (1回) (2) D値法による長方形ラーメンの解法 (6回)				・水平力分布係数 (D 値) を求めることができる。 ・標準反曲点を修正し，反曲点高さを求めることができる。 ・柱脚固定の解除方法を理解できる。			
前期期末試験				実施する			
3. マトリックス法の基礎 (1) マトリックス法の概要とマトリックスの演算 (1回) (2) ばね構造物の剛性マトリックス (3回) (3) トラス構造物の剛性マトリックス (3回)				・マトリックスの性質を理解し，マトリックスの演算ができる。 ・マトリックスを利用して，連立方程式を解くことができる。 ・部材端部の力と変形の関係を表すことができる。 ・マトリックスの重ね合わせができる。			
後期中間試験				実施する			
4.弾塑性の基礎 (1)弾塑性解析の基礎 (4回) (2)崩壊機構と保有水平耐力 (3回)				・弾塑性解析に関する用語を理解し，適切に使用することができる。 ・崩壊機構を理解し，保有水平耐力を算出することができる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			建築生産				
学年	第5学年	担当教員名	鈴木 邦康				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築設計されたものを技術的に具体化、産出する手段、方法を学び専門分野の基礎知識と関連する分野の知識を学習する。教科書による講義の他に、ビデオによる工事の流れ等を通観し、視覚的な理解を深め技術的能力を身につける。また、1級、2級建築士試験の演習を実施し資格試験の傾向、対策をはかる。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		建築技術に対する知識と資格取得に対する取り組みが必要です。					
到達目標		(1)建築物の施工の流れを理解できる。 (2)ビデオによる視覚的效果により、建築工事の理解を深めることができる。					
成績評価方法		4回の定期試験の結果の平均が60 点を超えていること。					
テキスト・参考書		教科書として・現代建築生産(第3 版):オーム社 参考図書・JASS 5 (日本建築学会)、改訂建築施工・建築行政:コロナ社					
メッセージ		欠席をせず、資格試験に向けた問題解決を計りましょう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
・ガイダンス、建築生産の流れと管理(1回) ・施工計画と施工管理(2回) ・施工設備に関する説明(1回) ・ビル建設に関するビデオによる学習(1回) ・資格試験に関する演習問題作成(1回) ・演習問題の解答、解説(1回)			・建築生産の大まかな流れについての理解ができる。 ・資格試験における各章における出題傾向や認識事項が理解できる。 ・ビデオ教材の視覚的效果により、理解する能力を身につけることができる。				
前期中間試験			実施する				
・地下工事に関する説明(5回) ・資格試験に関する演習問題作成(1回) ・演習問題の解答、解説(1回)			・地下工事に関する建築技術(施工法)についての理解ができる。 ・資格試験における各章における出題傾向や認識事項が理解できる。 ・ビデオ教材の視覚的效果により、理解する能力を身につけることができる。				
前期期末試験			実施する				
・躯体工事の概要(1回) ・鉄筋工事に関する説明(1回) ・建築配筋設計と施工の基礎、型枠工事に関する説明(1回) ・型枠工事計画と実施の基礎(ビデオによる学習)(1回) ・コンクリート工事に関する説明(1 回) ・資格試験に関する演習問題作成(1回) ・演習問題の解答、解説(1回)			・躯体工事に関する建築技術(施工法)についての理解ができる。 ・資格試験における各章における出題傾向や認識事項が理解できる。 ・ビデオ教材の視覚的效果により、理解する能力を身につけることができる。				
後期中間試験			実施する				
・鉄骨工事に関する説明(1回) ・鉄骨工事に関するビデオによる学習(1回) ・仕上げ工事に関する説明(2回) ・積算と見積りに関する説明(1回) ・資格試験に関する演習問題作成(1回) ・演習問題の解答、解説(1回)			・仕上げ工事に関する建築技術(施工法)についての理解ができる。 ・資格試験における各章における出題傾向や認識事項が理解できる。 ・ビデオ教材の視覚的效果により、理解する能力を身につけることができる				
後期期末試験			実施する				

建築学科			建築設計演習Ⅳ				
学年	第5学年	担当教員名	西澤 岳夫				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	学修単位1
授業の目標と概要		二級建築士の設計課題と同程度の設計図面を時間内に作図することができる。 与えられた様々な設計条件を分析・総合し、設計課題である住宅を計画的にデザインすることができる。 住宅設計に必要な意匠、構造、法規に関する専門分野の知識を修得し、計画に生かすことができる。					
		釧路高専目標	B:60%,D:20%,E:20%		JABEE目標	d-2-a,d-2-d,h	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		製図道具(トレーシングペーパーを含む)を毎回持参すること。 テキストの第1章及び第5章を十分に勉強しておくこと。 1/100スケールにおける建築表現と手描きの製図法を十分に復習し、効率的な設計作業ができるよう事前に準備しておくこと。					
到達目標		建築計画に関する専門知識を設計デザインの現場で十分生かすことができる。 200～300平方メートル程度の木造またはRC造建築の図面表現(配置図・平面図・立面図・断面図)が適切にできる。 決められた時間内でエスキス・設計をまとめることができる。					
成績評価方法		設計製図課題(90%)+授業態度(10%) 設計製図課題評価(100%)=課題1(50%)+課題2(50%)					
テキスト・参考書		教科書:『建築設計製図』(検定教科書) 参考書:『コンパクト建築設計』(日本建築学会編) 『図解 木造建築入門』(井上書院)					
メッセージ		二級建築士の実技試験は4時間半という短時間で設計をまとめなければならない。このため、授業時間内に集中して設計作業に取り組むよう心掛けてほしい。 提出期限を厳守すること。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
ガイダンス(1回) 課題1「木造2階建て住宅の設計」 ・課題及び作図要領の説明(1回) ・エスキス(4回) ・清書(1回)			設計と条件が理解でき計画に反映させることができる。 木造住宅の建築計画に関わる意匠、構造、法規が理解でき、それらを総合して設計に応用することができる。 時間内に配置、平面、立・断面の各図面を作成ができる。				
前期中間試験			実施しない				
課題1「木造2階建て住宅の設計」のつづき ・清書(1回)  課題2「RC造2階建て施設の建築設計」 ・課題及び作図要領の説明(1回) ・エスキス(4回) ・清書(2回)			設計と条件が理解でき計画に反映させることができる。 RC造建築の建築計画に関わる意匠、構造、法規が理解でき、それらを総合して設計に応用することができる。 時間内に配置、平面、立・断面の各図面を作成ができる。				
前期期末試験			実施しない				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			建築設備Ⅱ				
学年	第5学年	担当教員名	佐藤 彰治				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		高度な機能を備えた現代建築にとって、建築設備が重要な役割を担っていること理解させる。空調設備を中心とした専門分野に関する講義を行い、快適で機能的な室内環境を維持するための専門知識や技法を身につける。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-d	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		3、4年次の「建築環境工学」「建築工学実験」などで学んだ温熱感覚の指標、室内環境基準などを理解していること。 配布した図表等を毎回持参すること。電卓、定規類を用意すること。					
到達目標		1. 湿り空気線図、定常熱負荷計算が理解できること。 2. 空調システムの種類やメカニズムが理解できること。					
成績評価方法		定期試験点数(前期中間×0.4＋前期末×0.6)が60点以上合格とする。 同点数90%＋提出物10%を最終評価とする。					
テキスト・参考書		教科書 - 大学課程建築設備(石福昭他著、オーム社) 参考書 - 建築設備学教科書(彰国社)、図解建築設備(森北出版)					
メッセージ		各計算方法を正確に理解するよう復習、質問が重要。 「省エネ」と「快適性」を意識しながら学んでほしい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. 空調設備の沿革、空調設備と室内環境 (1回) 2. 湿り空気と空気線図(3回) 3. 空調熱負荷(1回) 4. 空調負荷計算(2回)			1.空調設備の役割と構成などが理解できること 2.温熱感覚指標、湿り空気の性状が理解できること 湿り空気線図の見方が理解できること 3.負荷の種類、設計用気象条件が理解できること 4.定常熱負荷・空調機負荷の計算ができること				
前期中間試験			実施する				
5. 空気調和計画法(2回) 6. 空調機、空気・熱搬送装置、熱源装置 (4回) 7. 換気設備(1回) 8. 省エネルギー計画法(1回)			5.空調方式の種類が理解できること 6.空調機の構成部位の種類が理解できること 簡単なダクト・冷温水配管設計ができること 冷凍の原理が理解できること 7.必要換気量や換気設備換気設備の種類を理解できること 8.PAL・CECによる省エネ手法、新エネルギーが理解できること				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			建築総合演習				
学年	第5学年	担当教員名	草苅 敏夫・三森 敏司・佐藤 彰治				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	学修単位1
授業の目標と概要		3名の先生によるオムニバス形式の授業であり、それぞれでテーマが異なる。異なるテーマを履修することで視野を広げて創造性を身につけることや、発表会を通じて情報処理能力やプレゼンテーション能力を身につける。					
		釧路高専目標	D:30%,E:70%		JABEE目標	d-2-b,d-2-c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		座学や実験・実習など、4年生までの授業が基礎となる。 特に、インターネットを通じての情報検索や収集、エクセルやワードの操作、パワーポイントなどの知識が必要です。					
到達目標		1.与えられた条件や要求を理解できる。 2.解決のための適切な計画を立てることができる。 3.総合的にまとめることができる。 4.分析し、発表することができる。					
成績評価方法		テーマごとのレポート(90%)に授業態度(10%)等を加味し、最終的に全テーマの総合点で評価する。					
テキスト・参考書		参考書:JASS5鉄筋コンクリート工事(日本建築学会) その他、各教員の指示による					
メッセージ		それぞれのテーマについて、事前にイメージを膨らませておいて下さい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
コンクリートの調合設計(5回) -コンクリート計画調合の決定(2回) -コンクリートの試し練り(2回) -試し練り結果の発表及び討論会(1回) 構造物模型の強度コンテスト(5回) -課題説明と模型の設計(1回) -模型の製作(3回) -設計発表会とコンテスト(1回)				・コンクリートの調合設計の方法が理解できる。 ・コンクリートの作製手順を身につけることができる。 ・プレゼンテーション能力を高めることができる。  ・力学的な模型をイメージできる。 ・設計図をもとに作成できる。 ・設計要旨をまとめ、発表できる。			
前期中間試験				実施しない			
環境設計のための気象データ解析(5回) -調査地域及び項目の決定(1回) -気象庁HPから必要データの取得と分析(2回) -データの統計解析と発表準備(1回) -発表会(1回)				・統計解析の方法が理解できる。 ・プレゼンテーション能力を高めることができる。 ・地域気候と建築との関わりについての理解を深めることができる。			
前期期末試験				実施しない			
後期中間試験							
後期期末試験							



建築学科			建築防災工学				
学年	第5学年	担当教員名	草 苅 敏 夫				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		過去に発生した自然災害や人的災害に関して学び、社会や環境に及ぼす影響を理解するとともにそこから得られる教訓を基に今後の防災計画・システムについて考えていく。このことから、防災の重要性を認識してもらうことを目標とする。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-5	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		座学中心であり、ビデオ等の視聴覚教材により理解を深める。災害関連について新聞やテレビなどのメディアからの情報に気を付けていることや、Webなどを通じての情報検索なども行えるようにしておく。					
到達目標		1.日本での自然災害や人為的災害について理解することができる。 2.災害に強い街造りを考えることができる。 3.災害に対する建築的な取組みを考えることができる。					
成績評価方法		2回の定期試験(後期中間40% + 学年末40%)と4回程度のレポートの成績(20%)により合否判定を行い、判定結果(90%)に授業態度(10%)を含めて総合評価とする。					
テキスト・参考書		テキスト:防災工学(第2版), 石井一郎他, 森北出版 参考書:地震と建築防災, 小野徹朗編著, 理工図書 地域・地区 防災まちづくり, 三船康道, オーム社					
メッセージ		「天災は忘れた頃にやってくる」・・・災害を防ぐには個人個人が防災意識をもつことが重要です。日頃から防災について考えておきましょう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1.災害の種類:(1回) 地震災害,風水害,火山災害,雪害 2.地震災害と防災:(6回) 地震発生メカニズム,震度とマグニチュード 地震の歴史,津波, 地震対策				・災害の種類を学び,過去の被害状況の概要が理解できる。 ・過去の地震災害を再考し,今後の防災のあり方について考えることができる。			
後期中間試験				実施する			
3.風水害とその防止策:(2回) 過去の台風の特徴,風水害の歴史,風水害に対する対策 4.火山災害:(2回) 火山活動の現状,噴火による被害,防災対策 5.雪害:(2回) 雪に起因する被害事例,雪との共存 6.建設災害とその防止策(2回)				・過去の風水害の状況を再考し,今後の対策について考えることができる。 ・火山活動によって生じる様々な被害を学び,今後の対策について考えることができる。 ・過去に発生した雪による被害を学び,雪害に対する防止対策を考えることができる。 ・過去に起きた建築関係での災害とその原因を学び,防止策について考えることができる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			鋼構造設計演習				
学年	第5学年	担当教員名	草苅 敏夫				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		鋼構造の事務所建築を例にとり、「構造力学」や「設計演習」、「鋼構造」で学んだ専門的知識を統合して、構造計算を通じて鉄骨建築のしくみを理解するとともに実社会で行われている構造設計手法について理解することを目標とする。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		計算が主となることから、電卓が必要である。 「構造力学」と「鋼構造」の知識が必要となる。					
到達目標		1.建築基準法に基づいた荷重計算ができる。 2.応力計算ができる。 3.断面算定ができる。 4.構造計算の流れを理解できる。					
成績評価方法		構造計算書による成績(90%)に構造図による成績(10%)を合わせて合否判定し、判定結果(90%)に授業態度(10%)を加味して、総合評価とする。					
テキスト・参考書		テキスト:自作テキスト 参考書:鋼構造第2版, 嶋津孝之・福原安洋他, 森北出版 鋼構造設計規準, 日本建築学会					
メッセージ		こつこつと計算を続けることが大切です。この演習を最後まで自力でやり遂げたら構造設計のプロの卵です。社会に出た時に大きな自信となるでしょう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.ガイダンス, 建物概要説明(1回) 2.荷重計算(2回) 3.剛比計算(1回) 4.長期荷重時応力計算(1回) 5.水平荷重の計算(2回)			・建物の構造概要が理解できる。 ・床荷重, 柱荷重等が計算できる。 ・部材断面から剛比が計算できる。 ・固定モーメント法で長期荷重時の応力計算ができる。 ・地震荷重・風荷重が計算できる。				
前期中間試験			実施しない				
6.水平荷重時の応力計算(2回) 7.長期柱軸力の計算(1回) 8.梁・柱の断面算定(2回) 9.接合部・継手の計算(2回) 10.伏図・軸組図等の製図(1回)			・D値法による応力計算ができる。 ・鉛直荷重時の柱軸力が計算できる。 ・応力に基づいて梁・柱の断面計算ができる。 ・応力に基づいて接合部・継手の断面計算ができる。 ・各伏図や軸組図を書くことができる。				
前期期末試験			実施しない				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			社会科学入門A				
学年	第5学年	担当教員名	南須原 政幸				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		時間的 空間的比較を通じて 分析 総合 判断という社会科学的思考を養うことによって 人類の歴史的背景 文化や価値観の多様性を理解し 社会問題を考える能力を身に付ける					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		特になし					
到達目標		社会的問題に興味を持ち その問題を分析できる能力を獲得する					
成績評価方法		レポート(100パーセント)合否判定もこれに同じ					
テキスト・参考書		テキスト 裁判の法と手続 参考書 はじめての法律学 現代憲法入門					
メッセージ		よく読むこと					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
裁判制度 7回				裁判制度がわかる			
前期中間試験				実施しない			
訴訟の具体像 7回				訴訟の具体像がわかる			
前期期末試験				実施しない			
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			社会科学入門B				
学年	第5学年	担当教員名	南須原 政幸				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		時間的比較 空間的比較を通じて 分析 総合 判断という社会科学的思考を養うこと によって人類の歴史的背景 文化や価値観の多様性を理解し 社会問題を考える能力を 身に付ける					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提とな る知識等)		特になし					
到達目標		社会問題に興味を持ち それを分析できる能力を獲得する					
成績評価方法		レポート(100パーセント)合否判定もこれに同じ					
テキスト・参考書		テキスト 藤原 帰一 参考書 進藤 栄一 現代国際関係学 田中 明彦 世界システム					
メッセージ		よく読むこと					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
国際政治のシステム 7回			国際政治のシステムがわかる				
後期中間試験			実施しない				
国際政治の動態 8回			国際政治の動態がわかる				
後期期末試験			実施しない				

建築学科			測量学				
学年	第5学年	担当教員名	加藤 雅也・白木 紘一				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		建築技術者として必要な測量の基礎的知識を身につけ、それを応用する能力を身につける。					
		釧路高専目標	C:10%,D:90%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		各種測量の理論と機器の操作方法、誤差の扱いなどについて講義する。 また、少人数のグループに分かれて実習を行う。実習は、作業に適した服装で行うこと。					
到達目標		測量の基礎知識と機器の操作方法、誤差の評価・調整方法を身につけている。 水準測量、トラバース測量、平板測量ができる。					
成績評価方法		合否:実習課題(60点)＋期末試験(40点)で、総合60点以上を合格とする。 評価:合格者に対しては、上記点数に授業態度点(+10点～-10点)を加算する。 授業態度の評価は、実習時の取り組み等を総合的に評価する。					
テキスト・参考書		テキスト:基本測量(実教出版) 参考書:新版測量の基礎知識(市ヶ谷出版社) 新版三角・多角・水準測量(市ヶ谷出版社) 新版地形・写真・応用測量/地図編集(市ヶ谷出版社) 測量のための基礎数字(実教出版)					
メッセージ		精度の高い測量結果を得るためには、測量機器の正しい扱い方や実技に関する工夫の積み重ねが大切です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1.ガイダンス(0.5回) 2.水準測量(2.5回) 3.トラバース測量(4回)				測量の意義や基本事項を説明できる。 レベルを設置し、基本的な操作ができる。 水準測量で標高差を求める事ができる。 トランシットを設置し、基本的な操作ができる。 角・距離を測定し、閉合トラバース測量ができる。			
前期中間試験				実施しない			
4.トラバース測量(3回) 5.測量誤差(1回) 6.平板測量(4回)				角・距離を測定し、閉合トラバース測量ができる。 水準測量や閉合トラバースの誤差の計算ができる。 放射法を用い、小地域の平板測量ができる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			卒業研究				
学年	第5学年	担当教員名	建築学科全教員				
単位数・期間		8単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		第5学年までに学習した専門科目の知識や能力に基づいて、担当教員の指導で各自の研究テーマを決め、一年間を通じて研究や開発を行う。 各自の研究テーマをまとめ、発表等を行うことにより、実践的技術者として要求される問題解決力、デザイン能力、コミュニケーション能力、自主的学習能力を養う。					
		釧路高専目標	D:40%,E:30%,F:20%,G:10%		JABEE目標	d-2-b,d-2-c,d-2-d,f,g	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		研究テーマの選択にあたっては、各研究室のガイダンスや過去の研究テーマを参考にできるだけ自分の納得のいく研究テーマを探すこと。個別のテーマについては担当教員とよく相談すること。卒業研究を遂行するにあたっては、きちんとした調査や計画の下で、問題解決に積極的に取り組む姿勢が求められる。研究の節目節目のまとめでは、自身の成果を相手に、文章や発表を通じて上手に伝えることが求められる。					
到達目標		各自のテーマを目標に従って計画、遂行し完了させることができる。 研究遂行にあたっての問題点を把握し、解決するために取り組むことができる。 研究計画をきちんと立てることができ、期限までに終了させることができる。 卒業論文及び卒業研究発表を通じて、成果の検討と伝達をすることができる。					
成績評価方法		(1)論文系 中間発表(10%),最終発表(10%),論文(50%),梗概(10%),口頭試問(10%) 研究態度(10%)を論文系の複数の指導教員で評価。 (2)設計系 中間発表(10%),最終発表(10%),図面(50%),梗概(10%),口頭試問(10%) 研究態度(10%)を設計系の複数の指導教員で評価					
テキスト・参考書		テキストなどは、指導教員の指示に従うこと。また、自主的に資料調査をすること。					
メッセージ		卒業研究は、これまでに5年間学んできた学習内容に基づいて、技術者として社会に役立てるための方法を修得します。 自分が将来目指したい分野を改めて真剣に考えて、積極的に取り組んでください。 卒業時には、これまでの科目では得がたい達成感がえられるよう努力してください					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
各研究室の研究テーマの説明。 希望調査後、配属決定。研究テーマの決定。 研究計画、調査等指導教官の下で研究を遂行。				自分が研究したい内容を把握することができる。 研究テーマの概要を理解し、どこまでの成果を得るかに ついて説明できる。			
前期中間試験				実施しない			
口頭試問 (10月下旬)				研究目的を説明できる。 研究計画について説明できる。 研究遂行状況について説明できる。 遂行上の問題点を分析でき解決方法を説明できる。			
前期期末試験				実施しない			
卒業研究中間発表(11月上旬)				研究の進行状況と今後の計画を説明できる。 研究の意義を理解することができる。 質疑応答を適切にできる。 問題解決のための調査と計画ができる。			
後期中間試験				実施しない			
口頭試問 (1月下旬) 卒業論文提出(1月下旬) 卒業研究発表(2月上旬)				研究内容を理解し、成果や作品としてまとめることができる。 コンピュータを用いて発表資料及び論文が作成できる。 研究成果や作品について説明することができる。 質問への的確な対応ができる			
後期期末試験				実施しない			

建築学科			知的財産				
学年	第5学年	担当教員名	古谷 栄男・大貫 和永				
単位数・期間		2単位	集中講義	週当りの開講回数	0回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		開発者・技術者として企業や研究機関の第一線で活躍するために必要な特許法について学ぶ。企業が開発者・技術者に求める能力は、大きく2つある。①発明をして特許を取得する能力と②他社特許の侵害を回避する能力である。この授業では、①について、特許がとれるかどうかを判断する力、発明を文書にまとめる力、発明と従来技術との違いを明確にする力を身につけ、②について、特許調査をする力、特許権の権利範囲を判断する力、他社特許を回避して設計する力を身につけることを目標とする。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-d	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		基礎知識から解説を行うので、前提となる法律の知識は不要である。ただし、各人の発明について、発明届出書(発明内容の説明書)の作成、特許調査などの演習を行うので、各人1つずつアイデアを事前に考えておくことが好ましい。教科書を参照しながら、配布したサブノートに記載する方式にて授業を進める予定である。集中講義、各6時限を5回、土日開講のため休日ダイヤを考慮し毎回10時35分開始。					
到達目標		企業において役立てることができるように、①発明をして特許を取得する能力と②他社特許の侵害を回避する能力を取得する。実践的な内容とそれを支える理論を学ぶが、それらを他人に説明できる程度に理解することを目標とする。					
成績評価方法		7回の小テスト、3回の課題提出などに基づいて評価する。小テスト70点、課題210点、その他70点とし、210点以上取得した者を単位認定する。詳しくは、第1回目の講義の際に公表する。					
テキスト・参考書		教科書：古谷栄男著「理工系のための実践・特許法」(釧路高専のこの講義のために書き下ろした教科書です) 講義時に配布するサブノート・プリント 参考書：特許庁「産業財産権標準テキスト」					
メッセージ		何のために学ぶのかを明確にした上で授業を進めたい。この授業は、隠れた3つのポイントを売りにしている。一つ目は実践の背景にある理論に知的興味をもって触れることができる、二つ目は記述試験に対応できる力が身につく、三つ目は非技術系科目の学び方を学ぶ(社会に出てから・大学に行ってから必要です)ことができることである。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. 特許を学ぶ必要性 2. 特許制度の概要 3. 何が特許になるのか 4. 特許権の効力 5. 誰が特許権者になれるのか 6. 特許出願から特許取得まで 7. 外国特許出願 8. 発明届出書の書き方 9. 特許調査 10. 侵害対応				1. 理工系の学生にとって、特許を学ぶ必要性はどこにあるのかを説明できる 2. 制度全体の理解のために必要な特許制度の理念を説明できる 3. 特許を取得するための要件を説明できる 4. 特許の持つ力、権利範囲の解釈を説明できる 5. 特許権は誰が取得できるのかを説明できる 6. 特許出願の審査の流れを説明できる 7. 外国での権利取得を説明できる 8. 自らの発明を届出書に書ける 9. 類似特許の調査方法を説明できる 10. 事件をモデルにして特許権侵害の判断できる			
前期中間試験							
				実施日：6/20,6/27,7/11,9/5,9/12 なお、集中講義であるため出欠には特に注意すること。就職試験などやむを得ない事情で欠席する場合は事前に大貫教授まで申し出て補講を受けること。			
前期期末試験							
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			中国文化A				
学年	第5学年	担当教員名	田 野				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		諸外国の伝統・文化の理解を深めることは、国際的技術者として必須である。 この科目では、近年、特に経済的に日本との緊密度が高まっている中国に焦点を当て、日本との歴史的関係・文化的相違や、現代における日本との関係について学習し、中国文化への理解を深めることを目的とする。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		外国文化を学ぶことは、日本を知ることにつながる。技術者として、歴史、文化を学ぶことは、技術を学ぶことと同様に重要である。					
到達目標		中国の歴史を理解する。 中国文化と日本文化の違いを理解する。 現代における日本と中国の関係を理解する。					
成績評価方法		定期試験(100%)。ただし、合格者については、課題提出による加点を行う。 2回の定期試験の平均が60点以上で合格である。					
テキスト・参考書		教員作成のプリントを授業の中で配布する。					
メッセージ		中国は歴史的にも、また近年は特に経済的に日本にとって重要な国である。 中国についての理解を深めることは、アジアに目をむけることであり、「アジアの中の日本」を知ることにつながる。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
中国の歴史と日本(古代、近代、現代) 中国と日本の文化的相違(日常生活、学校制度、経済)			中国の歴史について理解する。 歴史の上での中国と日本の関係について理解する。 日常生活、学校制度、経済制度などにおける中国と日本の文化的な相違について知り、中国理解に努める。				
前期中間試験			実施する				
中国語と日本語(文字、文法、日常会話) 現代の経済的日中関係(輸出入、中国の企業制度、中国における日本企業)			簡易字体と繁体字、日本の漢字の相違について理解する。 中国語の文法を知る。 中国語による簡単な日常会話ができる。 現在の中国と日本経済的関係を理解する。 中国と日本の企業制度の違いを理解する。 中国における日本企業の状況を知る。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							



建築学科			中国文化B				
学年	第5学年	担当教員名	田 野				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		諸外国の伝統・文化の理解を深めることは、国際的技術者として必須である。 この科目では、近年、特に経済的に日本との緊密度が高まっている中国に焦点を当て、日本との歴史的関係・文化的相違や、現代における日本との関係について学習し、中国文化への理解を深めることを目的とする。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		外国文化を学ぶことは、日本を知ることにつながる。技術者として、歴史、文化を学ぶことは、技術を学ぶことと同様に重要である。外国の歴史、文化に関する知識を持つことは、技術者として仕事をする上で必ず役立つ。					
到達目標		中国の歴史を理解する。 中国文化と日本文化の違いを理解し、現代における日中関係を考慮する。 現代における日本と中国の関係を理解する。					
成績評価方法		定期試験(100%)。ただし、合格者については、課題提出による加点を行う。 2回の定期試験の平均が60点以上で合格である。					
テキスト・参考書		教員作成のプリントを授業の中で配布する。					
メッセージ		中国は歴史的にも、また近年は特に経済的に日本にとって重要な国である。 中国についての理解を深めることは、アジアに目をむけることであり、「アジアの中の日本」を知ることにつながる。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
中国の歴史と日本(近代、現代) 中国と日本の文化的相違(日常生活、学校制度、経済)				中国の歴史について理解する。 近現代の中国史を日本史との関連において理解し、現代の日中関係を考察できる。 日常生活、学校制度、経済制度などにおける中国と日本の文化的な相違について理解する。 さらに、それらに基づいて、より深く中国を理解できる。			
後期中間試験				実施する			
中国語と日本語(文字、文法、日常会話) 現代の経済的日中関係(輸出入、中国の企業制度、中国における日本企業)				簡易字体と繁体字、日本の漢字の相違について理解する。 中国語の文法を知る。 中国語による簡単な日常会話ができる。 現在の中国と日本の経済的関係とその問題点を理解する。 中国と日本の企業制度の違いを理解する。 中国における日本企業の状況を知る。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			哲学A				
学年	第5学年	担当教員名	藤本 一司				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		「身体としての私」は、時間的存在者であることを感受することができる。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		教科書を予習しておいてください。					
到達目標		他者への応接の仕方の基本を、介護を通して学ぶ。					
成績評価方法		定期試験 60点以上 合格 定期試験:100%					
テキスト・参考書		教科書:藤本一司『介護の倫理 贈与・身体・時間 』(北樹出版) 参考書:藤本一司『倫理学への助走 「わかる」と「わからない」のあいだ 』(北樹出版) 藤本一司『愉しく生きる技法 未知性・他者・贈与 』(北樹出版)					
メッセージ		身体に問いかけながら、言葉を理解できればと思っています。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
介護して「あげる」、育てて「もらっていた」を知る(2) 介護して「あげる」という「私の位置」(2) 介護して「あげる」と、よろこびが到来する(3)				「あげる」によって、「私」が始まることを理解できる。 「私の責任」なしに「あげる」は不可能だと理解できる。 「私を動かす」ことが「善い循環」の条件だと理解できる。			
前期中間試験							
介護して「あげる」とは、「身体に聴く」こと(2) 「身体」は、「あげる」「もらう」の交換を欲している(2) 「他者の身体の死」は、「時間」を生成させる(3) 「身体」は、「時間」の伝搬者である(1)				「脳」に勝たせない「身体に聴く」を理解できる。 「交換の持続」と「交換の内容」を区別できる。 「いまここで不在の他者」をこそ回想できる。 「有ることのかけがえなさ」の伝搬を感受できる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験				実施しない			
後期期末試験				実施する			

建築学科			哲学B				
学年	第5学年	担当教員名	藤本 一司				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		争いを最小化し、共同体を存続させる力としての倫理を学ぶ。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		教科書をよく読んで、予習をしておいてください。					
到達目標		「わかる」ことにも「わからない」ことにも、その両極に振り切れてしまうことのない倫理を理解できる。					
成績評価方法		定期試験 60点以上 合格 定期試験:100%					
テキスト・参考書		教科書:藤本一司『倫理学への助走』(北樹出版) 参考書:内田樹『ためらいの倫理学』(角川文庫) 藤本一司『愉しく生きる技法』(北樹出版)					
メッセージ		「具体的な場面」を描けることと、しかし、そこに固執しない「しなやかさ」の両方を大事にしたいと思います。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
「うぬぼれ」と「無意識」(2) 善悪について(3) 決着済みの倫理について(2)			「無意識」というものを可能性として捉えることができる。 排除ではなく、受け容れることの意味を理解できる。 「規範としての倫理」の限界を理解できる。				
後期中間試験			実施しない				
倫理と未知性(4) 私の解体と再生(4)			責任と未知性の関係を理解できる。 受動性が主体性を立ち上げるという隘路を理解できる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			鉄筋コンクリート構造				
学年	第5学年	担当教員名	草苅 敏夫				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		鉄筋コンクリート構造による建物は数多く建てられており、主要な構造形式の1つである。この授業では鉄筋とコンクリートの相反する性質のもとで造られる鉄筋コンクリート構造のしくみとそれを構成する部材断面の設計方法を講義する。力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面算定方法を習得することを目標とする。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		構造力学の知識と鉄筋やコンクリートの材料に関する知識が必要とされる。計算が多いことから、受講時には電卓の用意が必要である。					
到達目標		1.鉄筋とコンクリートの性質が理解できる。 2.鉄筋コンクリート構造のしくみが理解できる。 3.力学や情報技術を使用し鉄筋コンクリート部材の曲げモーメントや軸力、せん断力に対する断面算定ができる。					
成績評価方法		2回の定期試験(前期中間40%＋前期末40%)と小テスト(20%)の成績により可否を判定し、判定結果(90%)に授業態度とレポート点(10%)を加味して総合評価とする。					
テキスト・参考書		テキスト:RC規準による鉄筋コンクリートの構造設計, 鹿島出版 参考書:鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説, 日本建築学会 鉄筋コンクリート構造, 市之瀬敏勝, 共立出版 鉄筋コンクリート構造入門, 松井源吾・西谷 章, 鹿島出版					
メッセージ		説明と演習を交互に行いながら進めていきますので、演習は自分の力で解いて身につけましょう。各単元終了ごとに小テストを実施しますので、理解が不足しているところは必ず理解するようにしてください。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.ガイダンス(1回) 2.鉄筋コンクリート構造の基礎知識(3回) コンクリートと鉄筋の性質, 圧縮力の分担 3.曲げを受ける梁(4回) 無筋梁, 単筋梁, 複筋梁 4.曲げと軸力を受ける部材(3回) 無筋柱, 複筋柱 5.せん断力を受ける部材(4回) せん断ひび割れ強度, 許容せん断力, せん断補強			・鉄筋とコンクリートの種類や性質を理解できる。 ・鉄筋とコンクリートの圧縮力の分担が理解できる。 ・曲げを受ける無筋梁・単筋梁の力の釣り合いが理解できる。 ・複筋梁の断面算定ができる。 ・柱断面の基本的応力度が理解できる。 ・柱の断面算定ができる。 ・せん断力を受けた場合の力の釣り合いが理解できる。 ・梁と柱のせん断補強が理解できる。				
前期中間試験			実施する				
6.接合部(3回) 柱梁接合部の破棄性状と設計 7.スラブ(3回) 8.耐震壁(3回) 9.付着・定着・継手(3回) 10.基礎(3回)			・接合部の強度を学び, 断面算定を理解できる。 ・スラブに生じる応力を学び断面算定ができる。 ・耐震壁の役割や強度を理解し, 断面算定ができる。 ・付着強度, 定着強度, 継手の方法を学び強度算定ができる。 ・基礎の種類や応力について学び, 断面算定ができる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			都市計画				
学年	第5学年	担当教員名	千葉 忠弘				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築は都市の一部であり、都市は様々な主体の集合である。都市計画は各主体の利害調整をしながら立案実現するものである。この講義では、さまざま都市問題を提示しながら、計画実現へ向けてのプロセスを理解する。また、より広義のまちづくりの哲学を学ぶ。この科目を通じて建築と都市との関係を理解し社会工学の幅広い基礎知識を取得し応用する力を身につける。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-5	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		都市計画は社会工学であるので、日常から新聞等を読み、社会問題を意識すること。 2回のグループ演習・発表、2回程度の個人の演習課題を課す。					
到達目標		建築集合体としての都市形態、都市計画の理念、まちづくりの哲学、まちづくり制度の基本的事項を理解できること。					
成績評価方法		合否判定は定期試験の平均点で評価する。 総合成績は定期試験80%、グループ発表・レポート20%で評価する。 ただし、すべてのグループ発表レポート提出が合格条件である。					
テキスト・参考書		教科書：市民のためのまちづくり入門(吉野正治著、学芸出版社) 参考書：都市計画教科書(彰国社) 参考書：都市計画(日笠端著 共立出版) 参考書：建築基準法令集					
メッセージ		講義を通じて都市問題、都市計画を身近なものにしてほしい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.ガイダンス、都市と建築との関係、都市計画の概念について(1回) 2.都市とは何か、都市化について(1回) 3.都市の性格、範域、分類(1回) 4.都市の類型化レポート作成(1回) 5.都市問題と都市計画、古典的都市問題(1回) 6.現代的都市問題(1回) 7.イギリスの近代都市計画発展過程(1回)			1.建築集合体として都市形態・都市計画の概念を理解できる。 2.様々な都市論と都市化現象を理解できる。 3.都市の基本的性格、範域の定義を理解できる。 4.都市を分類できる。 5.古典的都市問題と居住環境問題の関連を理解できる。 6.現代的都市問題の複雑さを理解できる。 7.イギリスの都市計画発展を理解できる。				
前期中間試験			実施する				
8.日本の近代都市計画発展過程(1回) 9.現代都市計画へ影響を与えた計画論(レポート作成)(2回) 10.上記のレポート発表(2回) 11.地区診断調査(3回)(グループ作業)			8.日本の都市計画発展を理解できる。 9.10.建築家、社会思想家などの計画論を理解できる。 (パソコンで資料収集し、プレゼ資料が作成でき、発表できる) 11.計画づくりのための調査方法を理解しマップを作成できる				
前期期末試験			実施する				
12.都市計画の立案の過程とマスタープラン(1回) 13.都市計画の理念・哲学 (13-1) 都市計画の主体・担い手(1回) (13-2) まちづくりセンター、住民と行政の対立(1回) (13-3) 高齢者にやさしい建築と都市のあり方(1回) (13-4) 防災計画と都市計画(1回) (13-5) 環境計画と都市計画(1回) (13-6) 商業建築と都市計画(1回)			12.計画立案のプロセスと都市マスの重要性を理解できる。 13-1.都市計画の主体者としての住民役割を理解できる。 13-2.住民支援としてのまちづくりセンターの機能を理解できる。 13-3.都市と建築のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを理解できる。 13-4.都市における防災施設のあり方、防災計画づくりを理解できる。 13-5.アメニティと生活環境、都市環境の関係を理解できる。 13-6.都市計画における商業地計画の問題と留意点を理解できる。				
後期中間試験			実施する				
13-7) 景観計画と建築デザイン(1回) 14.都市計画法の理念と概要(1回) 15.土地利用計画、都市施設(2回) 16.市街地開発事業、地区計画(1回) 17.都市化と住宅問題(1回) 18.都市計画と住宅政策(1回)			13-7.景観に配慮した建築デザイン上の留意点を理解できる。 14.都市計画法の構成、建築基準法との関係を理解できる。 15.線引き制度、用途地域、都市施設の意義を理解できる。 16.土地地区画整理の手法、地区計画制度と基準法との関連を理解できる。 17.都市計画における住宅問題を理解できる。 18.住宅政策の歴史を理解できる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			土質基礎工学				
学年	第5学年	担当教員名	加藤 雅也				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築物は地盤によって支持されているので、建築物の基礎を合理的に設計するためには、地盤の性質や挙動特性を知っておくことが重要である。そこで、地盤の強度(支持力)や変形(沈下)等の土の力学的な性質に関する基礎知識を修得することを目標とする。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		1～3学年で学習した数学の基礎的な知識が必要である。 物理における力学、構造力学における応力度の基本的な知識が必要である。 授業では主として講義形式で基本的な事柄について理論(考え方)を示し、適宜演習を行う。 さらに、自学自習用の課題を与える場合がある。					
到達目標		土の構成や地盤の特性および土中の水理について概略説明ができる。 地盤の基本的な力学的性質に関する基礎知識を身につけている。 また、それらに関する基本的な演習問題が解ける。					
成績評価方法		合否判定:2回の定期試験の結果の平均が60点を超過していること。 最終評価:2回の定期試験の結果の平均点とする。					
テキスト・参考書		テキスト:土質力学(鹿島出版会) 参考書:建築基礎構造[第2版](東洋書店),実用地盤・環境用語辞典(山海堂)など					
メッセージ		講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復練習)が必要である。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1.土の基本的性質(2回) 2.土中の水理(1回)) 3.地盤内応力(2回) 4.土の圧密(2回)				土の組成、分類等を概略説明できる。 土中の水の流れの特性を説明できる。 地盤内の応力について理解し、基本的な計算ができる。 圧密について理解し、圧密沈下に関する計算ができる。			
後期中間試験				実施する			
5.土のせん断強度とモールの応力円(1回) 6.クーロンの土圧理論(2回) 7.ランキンの土圧理論(2回) 8.地盤の支持力と沈下(2回)				土の強度について理解し、せん断破壊に関する基本的な計算ができる。 クーロンの土圧理論を理解し、基本的な土圧の計算ができる。 ランキンの土圧理論を理解し、基本的な土圧の計算ができる。 構造物の基本的な基礎形式と支持力の考え方を理解し、基本的な支持力の計算ができる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			特別設計演習				
学年	第5学年	担当教員名	森 太郎・西澤 岳夫				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		全国高専デザインコンペティション(デザコン)の課題に取り組むことで、デザイン、プレゼンテーションの能力を向上することができる。 チームで作業する場面もあるため、コミュニケーション能力の向上が期待できる。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		本科目は学習単位となっており、授業以外の時間を使って情報収集や作業を行うことが必須である。チームで作業を行うこともあるため、その場合は、チームに積極的に参加することが必要である。					
到達目標		デザコンの課題を通じて、自分のデザインした計画をまとめることができる。パワーポイント、ポスターなどを使ってプレゼンテーションができる。チームのなかで積極的に作業ができる。					
成績評価方法		中間発表(30点)、最終プレゼンテーション(20点)、作品の内容(50点)で評価する。(担当教員による採点の平均で評価) デザコンに応募できなかった場合とデザコンに応募できるレベルに達しないと判断された場合は合格できない。					
テキスト・参考書		教科書は指定しない。 参考書については、講義中に紹介する。					
メッセージ		作品を全国大会に出品して、よい成績を上げることを目標に努力して欲しい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. 授業ガイダンス(1回) デザコンについての説明 2. 調査・計画(6回)				授業の目的が理解できる。 デザコンについて、課題の内容が理解できる。 自分の行うテーマについての条件、計画のための調査ができる。 各自調査した結果を踏まえた計画ができる。			
前期中間試験				実施する			
3. 作品の作成(6回) 4. 作品発表会(2回)				自分が計画している内容について、調査結果、中間発表での講評等を踏まえて作品を作成できる。 自分の作成した作品について、パワーポイント、ポスターなどを使用して発表できる。			
前期期末試験				実施しない			
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			日本文学A				
学年	第5学年	担当教員名	小田島 本有				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		北海道出身であり、その死後も多くの読者に愛読されている三浦綾子の小説を読み進めると同時に、彼女の生涯や文学について各自が調べ発表することでお互いの認識を深め合うことを目標とする。					
		釧路高専目標	A:30%,F:70%		JABEE目標	a,f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		テキストは忘れずに持参すること。必ず受講者全員による作品の輪読を行う。また、受講者には発表をしてもらうこととする。					
到達目標		三浦綾子についての認識を北海道の人間として恥ずかしくない程度に身につけ、彼女の文学や人生についてある程度語ることができる。					
成績評価方法		合否判定:試験(50%)・発表(30%)・提出物(20%)					
テキスト・参考書		テキスト:三浦綾子『母』(角川文庫) "『銃口』上・下(小学館文庫) 参考書:高野斗志美『評伝 三浦綾子』(旭川叢書) 上出恵子『三浦綾子研究』(双文社出版) 三浦綾子記念文学館編『三浦綾子 新文学アルバム 生きることゆるすこと』					
メッセージ		三浦綾子の文学は、日頃文学が苦手だと感じている人にもすんなり入っていきやすい。これを機会に多くの読者を抱えている彼女の文学に触れてもらい、読書の習慣を身につけてもらいたい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(1回) 三浦綾子の生涯(2回) 発表(2回) 『母』(3回)				1年間の予定を理解できる。 三浦綾子の生涯や作品について理解できる。 調べたことを的確に皆の前で発表できる。 作品をすんなり朗読できる。			
前期中間試験				実施しない			
『母』(4回) 発表(3回)				作品をすんなり朗読できる。 調べたことを的確に皆の前で発表できる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							



建築学科			日本文学B				
学年	第5学年	担当教員名	小田島 本有				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		北海道出身であり、その死後も多くの読者に愛読されている三浦綾子の小説を読み進めると同時に、彼女の生涯や文学についても各自が発表することでお互いの認識を深め合うことを目標とする。					
		釧路高専目標	A:30%,F:70%		JABEE目標	a,f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		テキストは忘れずに持参すること。必ず受講者全員による作品の輪読を行う。また、受講者には発表をしてもらうこととする。					
到達目標		三浦綾子についての認識を北海道の人間として恥ずかしくない程度に身に付け、彼女の文学や人生についてある程度語ることができる。					
成績評価方法		合否判定:試験(50%)・発表(30%)・提出物(20%)					
テキスト・参考書		テキスト:三浦綾子『母』(角川文庫) "『銃口』上・下(小学館文庫) 参考書:高野斗志美『評伝 三浦綾子』(旭川叢書) 上出恵子『三浦綾子研究』(双文社出版) 三浦綾子記念文学館編『三浦綾子 新文学アルバム 生きることゆるすこと』					
メッセージ		三浦綾子の文学は、日頃文学が苦手だと感じている人にもすんなり入っていきやすい。これを機械に世界的に多くの読者を抱えている彼女の文学に触れてもらい、読書の習慣を身につけてもらいたい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
発表(3回) 『銃口』(5回)			調べたことを的確に皆の前で発表できる。 作品をすんなり朗読できる。				
後期中間試験			実施しない				
発表(2回) 『銃口』(5回)			調べたことを的確に皆の前で発表できる。 作品をすんなり朗読できる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			福祉住環境論				
学年	第5学年	担当教員名	依田 有康				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		これからの高齢社会に向けて、人間の生活環境を福祉的な視点から捉える。それを主に住宅、居住施設等で捉えた上で、生活上の問題点を把握し、あるべき姿を考えていくための基礎的知識を身につける。その上で、高齢者や障害者等の特別なニーズを持つ対象者への住環境のあり方を学ぶ。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-1	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		住居建築について常に関心を高め、配布資料等による知識の習得に努めること。 授業形態は、講義と演習であり、演習は、高齢者・障害者の身体特性による住宅改修に関する初歩的な設計作業となる。 演習課題数は、3課題程度である。					
到達目標		高齢者の住環境配慮についての考えを十分認識し、福祉住環境コーディネーター検定3級程度以上のレベルに対応することができる。					
成績評価方法		2回の定期試験の結果の平均(70%)と、演習課題(30%)の合計により最終評価を行う。合否判定も同様の内容で行う。					
テキスト・参考書		参考書:福祉住環境コーディネーター検定2,3級テキスト(東京商工会議所) 住環境のバリアフリーデザインブック(彰国社) バリアフリ - 住宅(オーム社)など					
メッセージ		講義は、必要なプリントとプロジェクターを使用し進める。 演習は、製図室を使用する。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1.高齢者の生活と住環境について(1回) 2.高齢者の心身の機能と特性(1回) 3.住環境整備の基礎知識(1回) 4.住宅に関する住環境整備計画演習(4回)			高齢人口・高齢世帯数の動向や家庭内事故について把握できる。 疑似体験用具をとおして車いすによる既存住宅の問題点を把握できる。 高齢者のかかりやすい疾病、身体的特性から住環境整備を考えることができる。  住宅改修計画の基本的なポイントを理解して、住環境改善計画の演習ができる。				
後期中間試験			実施する				
5.住宅に関する住環境整備計画演習(4回) 6.生活の場としての高齢者施設・居住施設(1回) 7.最近の福祉用具について(1回) 8.福祉住環境コーディネーター試験と解説(2回)			高齢者施設の計画と設計のポイントについて理解できる。 高齢者施設等を通し、ユニットケアの概念を理解できる。 福祉機器の意義と役割、種類と目的について理解できる。 福祉住環境コーディネーター3級程度の模擬試験とそれに合格可能な実力をつけることができる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			溶接工学				
学年	第5学年	担当教員名	草苅 敏夫				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		鋼構造物の製作において、溶接は欠かせないものである。ここでは、溶接の基本事項から始まり溶接設計、溶接材料、溶接施工、溶接監理に至る一連の流れを理解し実際の製作に携わる上で必要な知識と技術を習得する。座学が中心であるが溶接実習やビデオ等により理解を深める。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-3	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		鋼構造物の骨組構造と施工方法を理解しており、構造力学が解けること。					
到達目標		1.溶接の利点と欠点、溶接法の種類を理解できる。 2.溶接部の性質を理解できる。 3.溶接部の設計を理解できる。 4.溶接の管理について理解できる。					
成績評価方法		2回の定期試験(後期中間試験50% + 学年末試験50%)により合否を判定し、判定結果(90%)に授業態度(10%)を考慮して総合評価とする。					
テキスト・参考書		テキスト:溶接技術の基礎、溶接学会編、産報出版 参考書:溶接・接合技術、溶接学会編、産報出版 新版建築溶接問答、田中義吉・鈴木英次、建築知識					
メッセージ		専門的な授業ですが、溶接が無くては鉄骨建物は建ちません。溶接を学んだ建設技術者は大変少ないので、貴重な経験になると思います。将来鉄骨の建物に携わる時に役に立ちますから、しっかり勉強して下さい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1.ガイダンス、溶接法とその種類(2回) 2.溶接継手の強さ(3回) 3.溶接実習(1回) 4.溶接設計(2回)			・溶接の歴史および溶接法の種類と概要を理解できる。 ・継手の機械的性質、疲れ強度、脆性破壊、残留応力と溶接変形に関して理解できる。 ・下向き溶接でビードを置くことができる。 ・溶接継手の種類を理解し、強度計算ができる。				
後期中間試験			実施する				
5.溶接用鋼材と溶接熱影響部の材質(2回) 6.溶接材料の選び方・使い方(1回) 7.溶接実習(1回) 8.溶接施工管理(3回)			・溶接に使用される鋼材の種類を学び、溶接部の性状を理解できる。 ・被覆アーク溶接と半自動溶接に使用される材料が理解できる。 ・すみ肉溶接と突き合わせ溶接が理解できる。 ・良い溶接を行うための管理について理解できる。 ・溶接部に生じる欠陥の種類を理解し、その検査方法がわかる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			歴史と文化IA				
学年	第5学年	担当教員名	木村 峰明				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		ドイツ語圏の歴史、文化について理解を深め、ヨーロッパ史と関連付けながら文化の多様性を考察し、比較文化に資する。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		テキストを講読する。					
到達目標		ドイツ語圏およびヨーロッパの歴史、文化について関心を持ち、それらについてレポートすることができる。					
成績評価方法		合否判定は、学期末のレポート評価60点以上を合格、かつこれを最終評価とする。 不合格者は、再試またはレポートの評価60点以上をもって合格とする。					
テキスト・参考書		テキスト：熊谷徹「ドイツは過去とどう向き合ってきたか」 参考書：「角川世界史辞典」、石田勇治「20世紀ドイツ史」					
メッセージ		ドイツとヨーロッパの歴史・文化に親しむとともに、東アジアの歴史との取り組みとの差異についても考えてみてください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1 政治の場で(5回) 2 教育の場で(2回)				以下について略述できる。 1：ナチス・ドイツの加害責任と向き合い、旧被害国の信頼を回復してきた経緯  2：ナチス時代を重視する教科書の国際的共同作成の意義			
前期中間試験				実施しない			
3 司法の場で(3回) 4 民間の取り組み(2回) 5 過去との対決・今後の課題(3回)				以下について略述できる。 3：アウシュビッツ裁判、ナチス犯罪の追及を経て、アウシュビッツ否定を法律違反とするにいたる経過。 4：ドイツ企業、NGOによる償いとアウシュビッツへの若者たちの派遣、元被害者たちとの対話が和解への第一歩であること。 5：極右勢力の伸長、ドイツにおける「被害者論」とどう向き合おうとしているか。			
前期期末試験				実施しない			
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			歴史と文化IB				
学年	第5学年	担当教員名	木村 峰明				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		日本、アジア、西洋の歴史上の人物を採りあげ、彼らの生きた時代のことを考え、人間と歴史との関わりを探る。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		テキストを講読する。					
到達目標		歴史上の人物について関心を持ち、歴史を学ぶ基礎的な知識や方法を習得しながら、それらについてレポートすることができる。					
成績評価方法		合否判定は、学期末のレポート評価60点以上を合格、かつこれを最終評価とする。不合格者は、再試またはレポートの評価60点以上をもって合格とする。					
テキスト・参考書		テキスト： 草光俊雄ほか著「歴史と人間」、 参考書：「角川世界史辞典」、「山川日本史辞典」					
メッセージ		歴史・文化に親しんでください。そうすることによって、人間を多様な側面から探る一助にしてもらえれば幸いです。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1 歴史書はいかに編まれたか(4回) 2 歴史の転換点における人間の動き(4回)			1: ヘロドトスの『歴史』、『日本書紀』、『史記』といった独創的な歴史書の成り立ちに関心を持つことができる。聖徳太子、源頼朝と北条政子の夫妻をとりあげ、歴史書に記されているその虚像と実像について、関心を持つことができる。  2:クビライ、ルター、天正遣欧使節、梅津政景(秋田藩家老)ら、時代の転換点を生きた人物を通して、その歴史的意義を考えることができる。				
後期中間試験			実施しない				
3 近代世界の形成の中で人と歴史はどう関わってきたか(7回)			3: 以下のテーマについて関心を持つことができる。 a.主としてルネサンス以降のヨーロッパ社会における人間観の変遷、b.みずからの知力と技術を駆使して近代社会をつくり上げていった代表例としての産業革命期の技術者ブルネルとパリの都市計画推進者オスマンの仕事、c.近代日本を代表する思想家であり教育者である福沢諭吉の仕事の歴史的意義、d.東京大学総長山川健次郎とその妹捨松(最初的女子留学生)を通してみる日本の近代化、e.トルコ革命の指導者アタチュルクからみたイスラム世界における近代化のかたち、f.ガンディーを素材としたアジア的世界史像とその歴史観				
後期期末試験			実施しない				

建築学科			歴史と文化IIA				
学年	第5学年	担当教員名	山内 一美				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		古代から近現代にわたるイギリス・ヨーロッパの歴史を、様々な視点から考察することによって、歴史的思考力を養い、自他の文化理解をすすめる。 釧路高専目標(A-1)、JABEE目標(a)					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		歴史に興味関心を持つ人が対象です。 世界史の通史にあらかじめ目を通しておくこと。					
到達目標		歴史的な見方・考え方を、現代社会や文化を考察するうえでの思考のツールとして生かせるようになること。					
成績評価方法		定期試験(80%)、課題レポート(20%)					
テキスト・参考書		教科書:「ヒストリカル・ガイド イギリス」今井宏(山川出版社) 「図説イギリスの歴史」指昭博(河出書房新社)  参考書:「ニュービジュアル版 新詳世界史図説」(浜島書店)					
メッセージ		歴史は暗記すべき事実の羅列ではなく、過去との対話による、あくなき人間理解への希求の旅です。常に「現在完了進行形」であることを実感してください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1・はじめに(1回) 2・古代のイギリス(3回) 3・古代から中世へ(3回)				イギリス・ヨーロッパ文化の基層をなす古代から中世の歴史の様態を理解する。			
前期中間試験				実施しない			
4・中世のイギリス(3回) 5・中世のヨーロッパ(3回) 6・中世から近世へ(2回)				大陸と深くつながっていた中世イギリスの様態を理解する。 一千年の長きにわたり自閉するなかでヨーロッパ文化の骨格が醸造されていく様子を追う。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			歴史と文化IIB				
学年	第5学年	担当教員名	山内 一美				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位3
授業の目標と概要		古代から近現代にわたるイギリスとヨーロッパの歴史を、様々な視点から考察することによって、歴史的思考力を養い、自他の文化理解をすすめる。 釧路高専目標(A-1)、JABEE目標(a)					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		世界史の通史にあらかじめ目を通しておくこと。					
到達目標		歴史的な見方・考え方を、現代社会や文化を考察するうえでの思考のツールとして生かせるようになること。					
成績評価方法		定期試験(80%)、課題レポート(20%)					
テキスト・参考書		教科書:「ヒストリカル・ガイド イギリス」今井宏(山川出版社) 「図説イギリスの歴史」指昭博(河出書房新社) 参考書:「ニュービジュアル版 新詳世界史図説」(浜島書店)					
メッセージ		歴史は暗記すべき事実の羅列ではなく、過去との対話による、あくなき人間理解への希求の旅です。常に「現在完了進行形」であることを実感してください。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1・近世のイギリス(3回) 2・近世の世界(2回) 3・世界の植民地化(3回)			次第に国家体制を整え、力をつけていく近世イギリスとヨーロッパの様態を理解する。				
後期中間試験			実施しない				
4・近代の幕開け(2回) 5・産業革命(2回) 6・大英帝国と世界(3回)			近代ヨーロッパが世界を構造化していく過程と、世界の最先進国となったイギリスが世界帝国として絶頂期を迎える様態を理解する。				
後期期末試験			実施する				